

第四紀中・後期の年代的枠組みを理解するための ワークショップ

日時: 2008年12月25日(木)13:00 ~ 26日(金)17:00

場所: 信州大学理学部大会議室 (C棟 2F) 松本市旭3-1-1 JR篠ノ井線松本駅下車

バスターミナル 信大西門前下車 徒歩1分 地図 <http://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/maps/index.html>

ワークショップの趣旨:日本の第四紀後半の気候変動の解明にとって重要な問題のひとつが編年の軸が十分に精度良く定まっていないことである。 ^{14}C 年代の暦年校正問題(適用範囲と限界),海洋酸素同位体編年の新しい提案(LR04),氷床年代との対比,指標テフラの放射年代および酸素同位体層序との比較などについての理解を深め,現時点における日本周辺の標準的な年代軸としてどのようなものが最適であるのか,という点を探りたい.積極的なご参加をお願いします.

主催: 第四紀学会 古気候変動研究委員会,テフラ・火山研究委員会
後援: 信州大学理学部

<プログラム>

12月25日

13:00 公文富士夫 「ワークショップの趣旨説明:手軽に使える年代軸が欲しい理由」

13:30 中村俊夫 「 ^{14}C 年代測定法の課題と最適の利用方法」(仮題)

14:30 大場志道 「有孔虫殻に基づく海洋酸素同位体層序の現状と課題」

15:30 休憩

15:40 長橋良隆 「更新世中・後期の陸域の“標準”テフラ層序の概要」(仮題)

16:40 青木かおり 「指標テフラの海域への展開:北西太平洋海域における海洋酸素同位体層序上での指標テフラの層位」

17:10 質疑・応答と討論

19:00 懇親会

12月26日

9:00 川村賢二 「南極ドームふじ氷床コアの年代モデルと気候変動~北半球の氷床変動とのリンク~」

10:00 討論

10:30 参加者による自由発表(+ポスターセッション)

各人がポスター掲示と5~10分の口頭紹介を行う。

12:00 昼食

13:00~17:00 総合討論:「日本の第四紀中・後期における年代軸はどうあるべきか」

講演者の分析や参加者の主張をもとに年代問題への理解を深めるとともに,現時点での最適解として,どのような年代的枠組みで古気候資料を統合していくことが妥当か,といった問題に議論に集約していくことをめざす。

<講演・発表の募集とお願い>

・ワークショップを盛り上げ,よい議論の成果を生み出すために,積極的に発表・発言をお願いします。申し込まれた発表については,26日の午前か午後5~10分間で講演の機会を設定し,プログラムにも反映させます。講演は10分程度で計画して下さい。

・参加は自由ですが,準備の都合上(特に懇親会用に),事前にお申し込みいただくとありがたいです。講演申し込みは,12月15日までに講演題目とともにお知らせください。参加申し込みは19日までをお願いします。

<申し込み・連絡先>

公文 富士夫

〒390-8621 松本市旭3-1-1, 信州大学理学物質循環学科

電話 0263-37-2479, 電子メールアドレス: shkumon@shinshu-u.ac.jp